

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、  
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、  
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア  
マンスリー・レポート



ブラジル



南アフリカ



メキシコ



オーストラリア



トルコ



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## ブラジル



**【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルはECBオペ、中国経済指標で買い戻され小幅高～**  
 ブラジルでは個人消費関連の経済指標が幾分改善し、減速傾向が続いていた製造業にも下げ止まりの兆候がみえました。ブラジル・レアルはECBによる大量かつ長期の資金供給オペが実施され金融機関の資金繰りが改善したこと、主要輸出先である中国の予想を上回った経済指標や同金融緩和観測などから上昇しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは弱気材料はあるが、好材料もあり底堅い動きか～**  
 景気については燻り続ける欧州債務問題や新興国の景気減速、世界景気の先行き不透明感などから、改善の兆しがみられるものの依然として減速が続いています。インフレ率が同ターゲット内に収斂したことから追加利下げの可能性が一段と高まっています。ブラジル・レアルは、同国輸出鉱物価格の上昇が見込みにくいこと、利下げ基調にあることなど弱気材料はありますが、堅調な米国景気に加え、今後も前月の減税に続く政府による積極的な景気対策が期待されることから下値も限られ、底堅い動きになるとみています。



## メキシコ



**【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは原油価格上昇などから堅調～**  
 メキシコでは予想を下回りましたが、小売売上、消費者信頼感指数など個人消費関連の指標は堅調でした。米国の雇用情勢が上向き始めていますが、自動車輸出や海外就業者からの送金額が減少するなど、景気は緩やかな回復にとどまりました。政策金利は現在4.5%となっています。メキシコ・ペソは欧州債務問題が燻り続けていますが、ECBオペ、イラン情勢の緊迫化を受けての原油価格上昇などから堅調でした。

**【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは欧州債務問題、堅調な原油価格などからレンジ相場か～**  
 景気については、これまで好調だった主要産業である自動車の生産台数が12月に減少したことなどから、今後は全般的に鈍化が広がり始める可能性があるかとみています。しかし米国景気や原油価格が堅調なことから、景気の急激な落ち込みはないと考えています。政策金利は当面据え置かれるとみています。メキシコ・ペソは欧州債務問題への懸念が依然として払拭できないものの、良好な米国景気、中東情勢を受けた堅調な原油価格など好材料もあり、レンジ内での動きになるとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## トルコ



### 【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは為替介入などから底堅い動き～

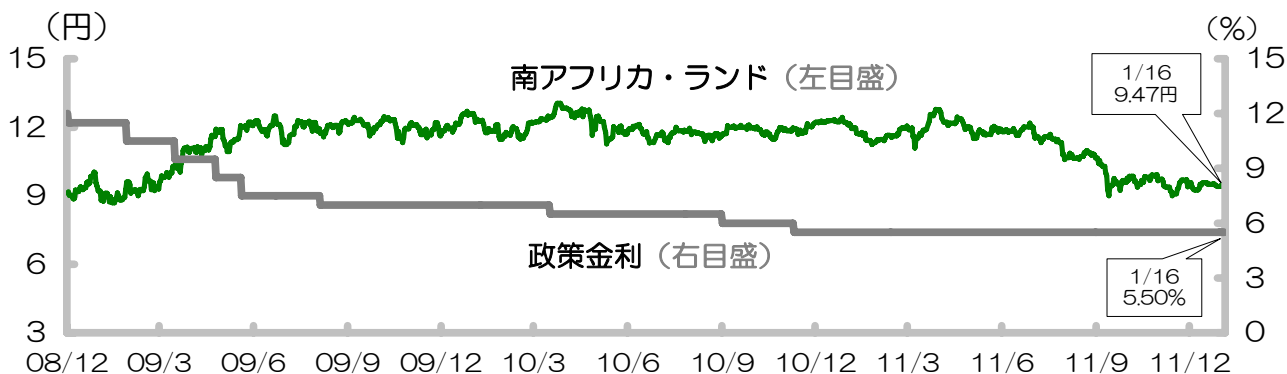
トルコでは製造業に幾分減速感がみられました。消費者物価についてはコア指数の高止まりが続いています。政策金利は据え置かれましたが、金利の低い翌日物での資金供給を一時停止し、高い金利水準での貸出しを実施するなど引き締め政策をとっています。トルコ・リラは12月下旬にかけて軟調でしたが、株価の上げ止まりや政府・中央銀行による為替介入などから底堅い動きとなりました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは好調な景気、介入観測の一方で欧州問題もありレンジ相場か～

景気については個人消費は好調で、製造業も幾分減速しているものの依然として好調を維持しています。不安視されていた貿易赤字については改善がみられます。物価上昇に対しては資金供給レートの調整による引き締めが行われることから、政策金利については据え置かれるとみています。トルコ・リラは好調な景気、下落時の為替介入期待などがある一方で、景気の重しとなる原油価格上昇、欧州債務問題などもありレンジ内での動きを予想しています。



## 南アフリカ



### 【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドはECBオペや製造業生産高を受けて上昇～

南アフリカの政策金利は5.5%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、ECBによる資金供給オペレーションを受けて欧州金融機関の資金繰りが改善したことなどから、12月中旬に上昇しました。その後は、欧州債務問題の再燃などからじり安となる場面がありましたが、製造業生産高が市場予想を上回ったことから再び上昇しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内で推移か～

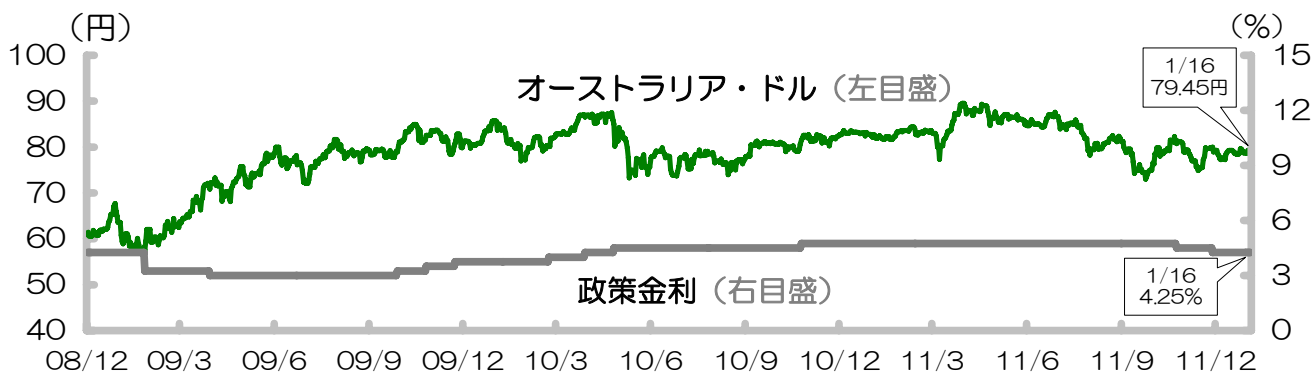
景気については、小売売上高、製造業生産高ともに小幅ながらプラスとなるなど、景気の緩やかな回復がみられています。消費者物価指数はすでに同国の目標インフレ率の上限(6%)を小幅に上回っています。今後も上限を上回った水準で推移する可能性があります。景気に対する配慮から政策金利については当面据え置かれるとみています。南アフリカ・ランドは、欧州債務問題や世界景気の動向の影響を受けつつ、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## オーストラリア

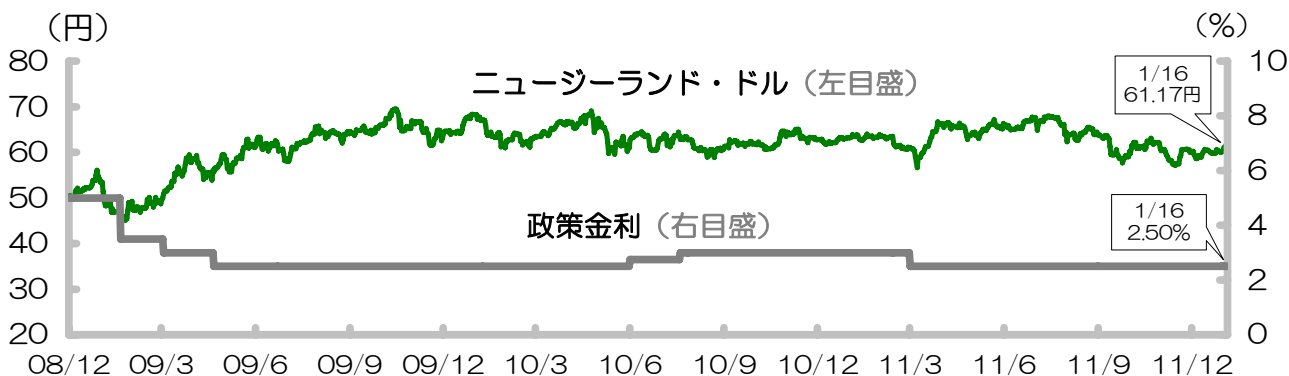


**【足元の金融市場の動き】～ オーストラリア・ドルはECBオペ、中国景気などから小幅高～**  
 オーストラリアでは個人消費関連指標の悪化、住宅建設の先行指標の低迷がみられましたが、製造業関連の指標や景気先行指数の上昇など景気は緩やかながら回復を続けているとみられます。政策金利は現在4.25%となっています。オーストラリア・ドルはECBの資金供給オペにより欧州金融機関の資金繰りが改善したこと、中国の予想を上回った経済指標、同金融緩和観測を受けた資源高期待などから上昇しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ オーストラリア・ドルは資源開発投資、最上位の格付などから堅調か～**  
 景気については鈍化してはいるものの、回復基調にあります。同国準備銀行のインフレ率見直し引き下げなどもあり、追加利下げの可能性が高いとみています。貿易収支悪化や欧州向け輸出の減少が予想されますが、金融緩和に転換した中国经济、高水準が続く資源開発投資など、景気は緩やかな回復を続けるとみられます。オーストラリア・ドルは欧州債務問題への懸念、利下げなどの材料はありますが、資源開発投資、投資先として選好されやすい高格付の国債などから底堅く推移するとみています。



## ニュージーランド



**【足元の金融市場の動き】～ ニュージーランド・ドルは堅調な国際商品相場などを受けて上昇～**  
 ニュージーランドでは、7～9月期の実質GDPが+0.8% (前期比) となりました。消費者および企業の景況感ともに前月から低下しました。ニュージーランド・ドルは、7～9月期の実質GDPが堅調だったことに加えて、ECBの資金供給オペを受けてユーロ圏の金融市場の緊張が緩和したこと、中国の金融緩和観測などを受けて国際商品相場が堅調に推移したことなどから、上昇しました。

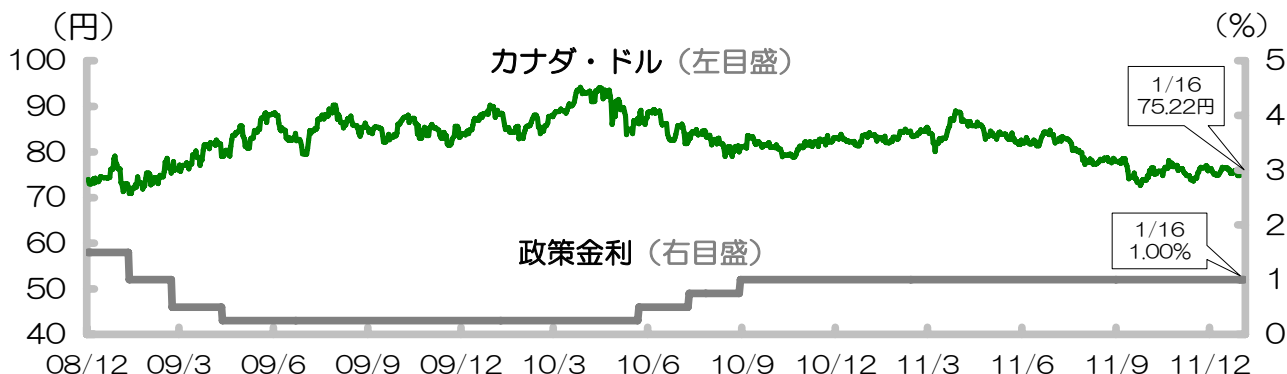
**【当面の金利・為替の見通し】～ ニュージーランド・ドルは米国、中国景気への期待から底堅く推移か～**  
 景気については、足元では景況感の鈍化がみられますが、大地震からの復興需要もあり今後も緩やかに回復を続けるとみられます。政策金利については、欧州債務問題の先行きが不透明な一方、国内景気が比較的堅調なこともあり、現行の水準で据え置かれるとみています。ニュージーランド・ドルは、欧州債務問題の動向による下振れの可能性もありますが、国内の景気動向を勘案すると追加金融緩和策が考えにくいことに加え、堅調な米国景気や中国の景気対策への期待などもあり底堅く推移するとみられます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## カナダ



**【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは原油価格や欧州債務問題の動向を受けて往って来い～**

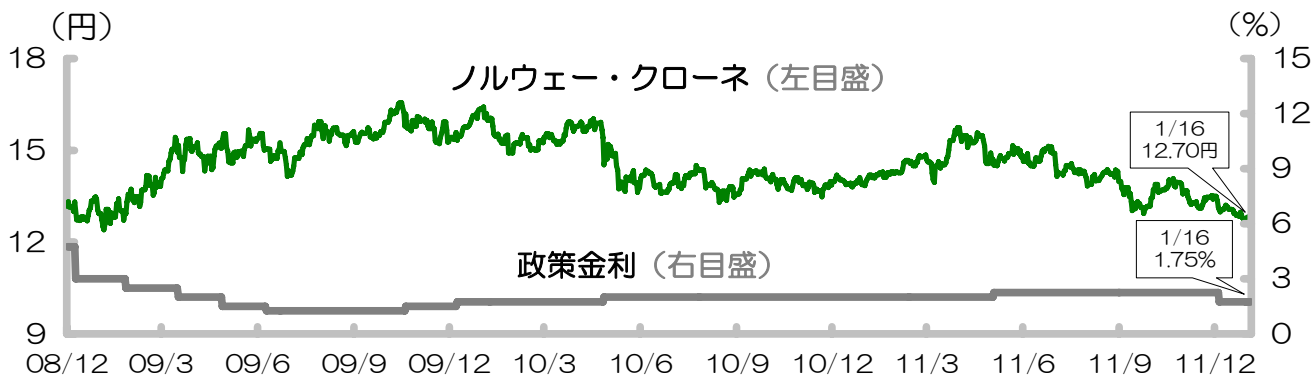
カナダでは、10月の実質GDPが前月比で横ばいとなり、市場予想を下回りました。公益事業や鉱業などの落ち込みが影響しました。カナダ・ドルは、ECBの資金供給オペを受けてユーロ圏の金融市場の緊張が緩和したことに加えて原油価格の上昇や米国の製造業関連指標が相次ぎ市場予想を上回ったことなどから年末にかけて上昇しました。年明け以降は原油価格上昇の一服やフランス国債の格下げ観測など欧州債務問題が重しとなったことから反落しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは堅調な米国景気と原油価格を受けて底堅い動きか～**

景気については、消費関連、雇用関連の指標の改善に加えて主要貿易相手国である米国の景気が底堅いこともあり、回復基調が続けるとみられます。ただ中央銀行の景気見通し調査では、依然として欧州債務問題が企業の業績見通しの重しになっていることを示唆しています。政策金利については、当面は現行水準を維持するとみています。カナダ・ドルは、欧州債務問題を受けた投資家のリスク回避の動きの可能性も考えられますが、堅調な米国景気や原油価格の高止まりなどから底堅く推移するとみています。



## ノルウェー



**【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネは上昇後、ユーロに連れ安～**

ノルウェーの政策金利は、1.75%に据え置かれています。ノルウェー・クローネの対円での動きは、ECBによる資金供給オペレーションの実施を受けて欧州金融機関の資金繰りが改善したことなどから、他の資源国通貨と同様に上昇しました。その後は、欧州諸国の国債格下げ観測など欧州債務問題に対する懸念から下落したユーロに連れ安しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内で推移か～**

景気については、鉱工業生産が市場予想を小幅に上回りましたが、PMIが景気の転換点である50を下回った状況にあり、さらには小売売上高が同予想を下回るなど、減速がみられています。また、主要輸出先である欧州諸国の景気動向の影響が懸念されることもあり、政策金利は当面、現行水準を維持するとみられます。ノルウェー・クローネは、今後も景気減速が予想される一方で、今後は高格付の国債に対する選別が強まる可能性があることから、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## インドネシア



### 【足元の金融市場の動き】～インドネシア・ルピアは物価指標の鈍化を受けた利下げ観測から下落～

インドネシアでは、消費者物価指数が前年比+3.79%となり2011年のインフレ目標の下限を下回る水準となりました。消費者信頼感指数は116.6と前月より上昇し、内需の堅調さがみられました。政策金利は、通貨安や政府の補助金抑制策による燃料代上昇の影響が懸念されることから据え置かれました。インドネシア・ルピアは、欧州債務問題による投資家のリスク回避の動きに加えて、輸出の鈍化を受けて追加利下げ観測が浮上したことなどから、年明け以降軟調に推移しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～インドネシア・ルピアは為替介入の可能性もあり底堅く推移か～

景気については、引き続き旺盛な内需やインフラ投資などから堅調に推移するとみられます。政策金利については、自国通貨安やインフレ圧力に対する懸念から据え置かれるとみえますが、世界景気の見通しが悪化するようなら予防的な利下げの可能性も考えられます。インドネシア・ルピアは、欧州債務問題による資本流出への懸念が残りますが、下落局面では為替介入が実施される可能性があり、また大手格付け会社による国債の投資適格級への格上げなども支援材料となることから、底堅く推移するとみえます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

## 今月のトピック

### 【債務問題に揺れるハンガリー】

ハンガリーの金融市場が揺れています。オルバン政権は、2010年の議会選挙でフィデス・ハンガリー市民連盟が圧勝したことを受けて発足し、3分の2を占める議席を背景に「憲法裁判所の権限縮小」、「報道の自由の規制」などの憲法改正を進めたことに加え、中央銀行の独立性を侵す法改正も検討されました。民主主義と中央銀行の独立を重視する欧州委員会は、この動きを受けてハンガリーへの資金支援交渉を一時休止しました。ハンガリーは中欧最大の債務国で、負債のファイナンスには海外からの資金流入が欠かせない状況の中、欧州債務問題の拡大を受けて同国からも投資資金が流出し、通貨フォリントはユーロに対して直近半年で20%以上下落し、中央銀行は通貨安対策のため政策金利を昨年11月、12月と2回にわたり計1.0%引き上げ7.0%としています。国債利回りは上昇傾向で推移し、ポーランドやチェコと比べて高い状況です。主要格付け会社はいずれも同国債の格付けを現在では投資不適格としています。同国政府はEUとIMFに予備的な追加支援交渉を要請しましたが、欧州委員会からの要求は中央銀行の独立性の問題などで現政権にとって厳しいものであることから、同国金融市場の緊張感は当面続くと考えられます。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。